

地域医療とは何か？



～宮崎県の課題と地域での医学教育～

宮崎大学医学部
地域医療・総合診療医学講座
教授 吉村 学

健康づくりの基本は「セルフケア」

健康づくりの基本はまずはセルフケア、つまりご自身で健康に心がけて努力することが求められています。ただ一旦異常が見つかったり、病気が発症した場合には医療者のサポートが必要になります。自分の住んでいる地域や勤務先も含めた地域で医療がしっかりと提供されて、必要な時にかかれることは社会の基盤であります。

宮崎県の現状と課題

こうした基盤を揺るがず状況が様々な点で宮崎県にも表れてきています。「地域医療」という言葉をテレビや新聞で聞かない日はないかもしれませんが、人口当たりの県内医師数は全国平均並みにあるのですが、宮崎市に集中しておりその偏在があり、県内での地域格差が生じています。また在宅医療の目安である「自宅での看取り」の率においても26市町村内で約6倍の開きが出ています。医師養成を担当している本学医学部や宮崎県、県医師会をあげてこの課題に取り組んでいるところです。国の医療政策は明らかに地域医療の充実、在宅医療、医療と介護の連携などを重視する形になっており、住民と行政、医療機関が力を合わせて取り組むことを推進する形に舵を切っています。

また宮崎県では人口減少に加えて、医療や介護の人材不足、人口比で多い病床数、医療系養成機関から卒業後に県外への流出が依然として解決されないままです。こうした課題には様々なレベルでの対応策を立てて取り組んでいます。私の所属する講座では、以下の取り組みをしています。



医学生の教育、特に地域での教育

地域医療に親和性のある医学生に育てていくには、地元出身の学生や面接試験などでの適性を評価することだけでなく、早い段階から県内の実情を肌で感じるような学びを提供しています。現地の医療機関では様々な多職種の方々が力を合わせて患者さんを支えています。特定健診に関わっておられる保健師さんたちにお世話になることもあります。医療機関の中でも、外でも学ぶ機会を作り県民の健康を支える意義を学びます。限られた医療資源の中で成果を出していくにはこうした連携の力を獲得することが求められています。その学びの場は地域です。ぜひともこうした若者の養成にも皆様のお力を貸していただければ幸いです。



総合診療医の養成

これは新しい専門領域として正式に認められつつある（現在協議中）医師で、例えていうと「昔の町医者」のような医師です。昔と決定的に違うのは、新しい腕と最新の知識を兼ねそなえた医師で、子供から高齢者まで対応し、全ての健康問題にまず対応して自分の担当する地域全体のこともケアしながら、地域の関係者と力を合わせて診療していく医師のことです。こうした医師は先進国ではヘルスケアの基本であり、健診の異常や各種相談事の最初の相談相手です。しかも自分のかかりつけとして継続的に関わるのが推奨されています。昨年オランダから報告された研究結果では、かかりつけ医を長く持てば持つほど生命予後が伸びるといった初めての成果が報告されました。わが国と制度が違いますが、継続的な医師患者関係のもつメリットが証明されたとも言えます。



県民の皆様のご協力を

宮崎県内でもこうした医師養成は始まったばかりです。地域で働く医師、総合診療医は地域の皆さんの協力なしには育てることができません。こうした医師があまねく県内で活躍して、みなさんの住む地域の守り神の一つとして機能することを夢見て努力していきたいと考えています。

